

## IMF による国連の持続可能な開発目標への支援

---



マリの学童行列風景。一部の低所得国における男女間の教育ギャップの縮小は、IMF アドバイスが役に立つ 2030 年開発目標の 1 つだ。(写真 © Stringer/Reuters/Newscom)

ステファニア・ファブリジオ、ローランド・クポダー、クリス・レーン

2015 年に国連が 持続可能な開発目標 (SDGs) を採択して以来、われわれ IMF は関係各国がその目標達成できるように支援してきました。 政策アドバイス、研修、資金支援を通じての支援です。時間の経過とともに結果は現れますが、既に特筆すべき進展があります。

## 平仄のよく合うIMF業務と2030年開発目標



国内及び世界の経済・金融安定性	SDG 17
貧困撲滅を伴う力強く、包摂的で、持続可能な経済成長	SDGs 1-4, 8, 10
社会インフラのギャップを持続可能的に解消	SDG 9
ジェンダー平等と包摂	SDG 5, 10
気候変動対応政策	SDGs 7, 12-13
必須公的サービス提供のための財政余地の創出	SDG 6
制度強化のための能力形成の提供	SDG 16
国家統計システム強化とSDGグローバル指標フレームワーク開発のための能力形成の提供	複数の SDG 目標

SDGs(持続可能な開発目標)は、貧困の終息、地球の保護、そして人類の平和と繁栄の享受を目的に国連が設定した17のグローバルな目標から成る。

SDG 達成を目指す各国に対する IMF の支援は、一次産品輸出低所得国を含む多くの国で経済情勢が悪化する中でより重要なものになっています。世界経済に成長の勢いは付きつつありますが、一次産品価格が大幅下落し、債務水準が上昇する中、成長の勢いは国によってばらついているからです。

IMF の仕事は国際経済・金融の安定性を促進し、各国が力強く、持続可能で包摂的な経済成長を達成することを支援することです。経済的安定を維持し、強い成長を達成することは、各国が貧困を撲滅し、人並みな就職を提供し、不平等を減らすという目標を追求する上での鍵となる土台です。IMF はまた、各国の公的資金調達力の強化を支援します。それは転じて、公衆衛生、教育、社会インフラを向上させる [追加的資源](#) を提供します。

近年、IMF は各国に格差、ジェンダー、[金融包摂](#)、そして気候変動に関して政策アドバイスを与えています。以下に挙げるのは、IMF のアドバイスがこうした分野で各国の開発目標の達成努力にどう貢献しているかのいくつかの例です。

- **格差問題** 格差問題を克服することは各国が持続可能な経済成長を達成することを助けます。IMF の [最近の研究](#) が示していますように、大きな所得格差は、成長期間が短くなり、経済の不安定さが増すことに結び付きます。ガテマラ、マラウイ、ミャンマーなど様々な国で、成長を底上げする経済改革は、

それ自体格差を拡大し得ますが、それらの影響を緩和し得る改革のデザインや補完的措置を、[IMFは見つけました](#)。例えば、我々はマラウイで、そうでなければ農業補助金の削減で窮地に追いやられる貧困農業従事者の長期的生産性を向上するための農業リサーチと開発への支出拡大と的を絞った所得移転を提言しました。マラウイ当局はそれを基に、今年の補助金改革を設計しました。

- **ジェンダー** 女性の有給労働は経済成長に非常にポジティブな影響を及ぼします。これが、IMFがエジプト、インド、ヨルダン、マリのより多くの女性が有給労働に参加することを促進する努力を支援している理由です。例えばマリでは、男女間の教育ギャップと世界でもトップグループの高い出生率が、女性の有給労働参加への主要な制約となっていることを指摘しました。そのため、IMFは女性への教育、研修プログラムの支出拡大と、避妊具の配布拡大を勧告しました。
- **金融包摂**— 全ての人に対するバンキングなど金融サービスへのアクセスの提供。コロンビア、ナミビア、ナイジェリアでは、IMFは金融包摂を向上させるための「ハウツー（どうするか）」についての実践的なアドバイスを行いました。例えば [コロンビア](#)では、我々は個人と小企業の金融アクセスを向上させるための電子マネーライセンスの重要性と中央管理された移動可能な電子不動産登録システムの導入を強調しました。ジャマイカでは、[IMFの勧めに従って](#) 当局は [金融包摂国家戦略](#) の実践を監督するための金融包摂委員会を設置しました。
- **気候** 小さな国は気候変動と激しい天災に最も脆弱なグループに入ります。IMFは世界銀行と協力してこれらの国の気候変動政策評価に関する支援を行っています。まずセイシェルとセントルシアでパイロット実施されたこの評価は、気候変動への対応と、その緩和政策についてアドバイスをしました。つまり、天災へのより良い対応だけではなく、そのリスクを軽減し、より良く備えるにはどうすればよいかを助言しました。これは [IMFアドバイス](#) で強調されていますように、予算に十分な余地を確保しておくことと、緊急時用資金計画を作成しておくことにより可能となります。それに加え、今回の [世界経済見通し](#) は低所得国の経済パフォーマンスへの気候の影響を検証します。
- 上の例が示しますように、IMFは各国が自らの計画を実行するために持続可能な経済状況を作り出すための支援を行っています。今週の国連ハイレベル政治フォーラムでは、44カ国が目標を達成するための行動と、多くの異なる目標にわたってその成功度を測る難しさを発表しました。我々は来年、この2030年開発アジェンダの実行へのIMF支援の範囲と有効性に関して、深い検証結果を作成・報告致します。

\*\*\*



ローランド・クポダー IMF 戦略政策審査局のシニア・エコノミスト。多くの発展途上国及び新興市場国の財政、対外、金融分野のマクロ経済政策を中心に研究調査。これまでの調査、発表論文は金融発達。経済成長、エネルギー補助金、貿易統合など多岐にわたる。トーゴ出身、CERDI で経済博士号取得。



クリストファー・レーン IMF の国連特別代表。IMF では主に発展途上国及び新興市場国のマクロ経済政策と経済開発分野のポストを歴任。国連特別代表への就任前は、2012 年から 2016 年まで約 70 の低所得国への IMF 対応や政策を統括。エボラ出血熱などの公衆衛生危機に見舞われた国々への債務削減や途上国の金融セーフティネットの拡大などを手掛けた。この他、リベリア、マリ、ロシア、トルコ、リトアニア、ナイジェリアなども担当した。



ステファニア・ファブリジオ IMF 戦略政策審査局のデピュティ・ユニット・チーフ。IMF 以前はスペインのサラマンカ大学の客員教授。主要研究分野はマクロ経済、公的財政、財政制度などで、特にマクロ経済政策と改革の所得分配への影響について深く研究している。有名経済学雑誌に多数の研究論文掲載。欧州大学院で経済学博士号取得。